

# 長井あやめ公園100周年に寄せて 長井系花菖蒲の登録

## 〈管理の継承と品種登録〉 山形県長井市商工観光課

多くのお客様に親しまれ長井のシンボルといわれる「長井市あやめ公園」は、平成22年に開園100年という節目の年を迎えます。この歴史において、これまでの品種管理を継承し現在のあやめ公園を造られてきた先人の皆様には、並々ならぬ苦労があったことが伝えられています。明治43年、長井の横町で茶店を営む金田勝見氏が周囲の杉林を伐採して



昭和初期のあやめ公園の絵葉書

5aほど開墾し、数十株のあやめを植え、現在のあやめ公園の基礎を作りました。しかし、戦時中の食料不足から、あやめ公園は「いも畑」と化してしまい、これを惜しんだ方々があやめ苗を保存し、終戦後の昭和24年に地区民と共に公園再生に取り組み復興を遂げることとなりました。その後、幾度の整備を重ね、古種とともに、江戸系、肥後系などの改良種が導入されて公園は色とりどりに変化し、現在では3.3ヘクタールの面積に500種100万本が植栽されています。

「あやめ」を愛する有志が公園再生に尽力される中、昭和37年、日本花菖蒲協会の皆様に来園していただいた際、長井独自の花として30数種類に命名していただき「長井古種」が誕生することになりました。長井古種は古来の花菖蒲とは異なり、江戸系の古種よりもさらに原種に近いといわれ、大輪にはない野の姿をとどめて清楚で端正な姿が今も見る人を魅了し続けています。

その後の調査により、長井古種か

ら派生(交配や変異によると考えられる)して長井古種の性質を全面的に受け継いだ「長井系」と言われる品種も確認され、現在あやめ公園には長井古種31種、長井系品種14種が栽培されています。

この他、ある程度の株数があり、現存する長井系とは明らかに別品種と判別できる品種を長井〇〇号として、管理番号をつけて選別し、種苗圃場で育成してきました。中には20年も前から存在していた品種もあります。その中で微妙に違う色彩のもの、内、外花被、花柱の色、筋の入りの方など、長井古種としての類似した特徴を持っている点などから長井系としてその中から18種類を選抜いたしました。

この18品種について、市民や観光客の方が長井のあやめに興味と関心を持ち続けてくださるものと考え、無名花命名コンテストを平成19年度に実施しました。コンテストでは実物と写真を見ていただきながら、イメージに合った名前をつけてもらい、1品種について5つの候補を絞り込みました。翌20年度のあやめまつりの間に5つの候補の中から投票

いただき、得票の最も多かった名前を候補として決定しました。この中から既に登録されていた品種を除いた17品種と、まだ登録申請していなかった長井系の3品種の計20品種をこのたび品種登録していただくことになりました。

あやめ公園では6月10日から7月10日までの1ヶ月間「あやめまつり」が開催され、毎年多くのお客様にお越しいただいております。まつり初めの頃は開花量が少ないことから早生種の割合を増やし、豪雪による開花遅延の解決策としての融雪に取り組むなど、栽培方法の改善や長井に適した肥培管理の確立に努め、多くのお客様に楽しんでいただける公園を目指してきました。あやめ公園100年を迎えるにあたり、その歴史を感じながら古種の保存と新たな品種の創出を今後の課題とし、年間を通して市民の憩いの場となるよう、見せる公園、癒される公園を目指して取り組んでいます。

この度の品種登録に関して親身な御指導と御厚情をいただきましたことに深く感謝申し上げます。最後になりますが日本花菖蒲協会の創立80周年と長井あやめ公園開園100年の節目を同時に迎えられることを大変光栄に存じます。